

長野県の中学校集団登山における生徒の意識調査

長野県山岳総合センター

はじめに

長野県山岳総合センターでは、3年から5年ごとに、県内中学校における学校集団登山の動向についてアンケート調査を行なっている。

この調査では、各学校の「登山の実施状況」や「持参した装備」、「登山中に体調不良になった生徒数」といった学校集団登山の実態についてまとめたものを公表してきている。また、登山の実施に当たって先生方が課題と感じていることをまとめた年もある。

一方で、生徒たちが登山についてどのような感想をもったかという「生徒の学校集団登山における意識の実態」についての調査は、平成12年度の「小・中学生のアウトドア活動実態調査」だけであり、その後の実態はわからない。

今回の調査研究では、「生徒の学校集団登山における意識の実態」について知りたいと考え、本調査を実施した。

【調査対象校・調査方法】

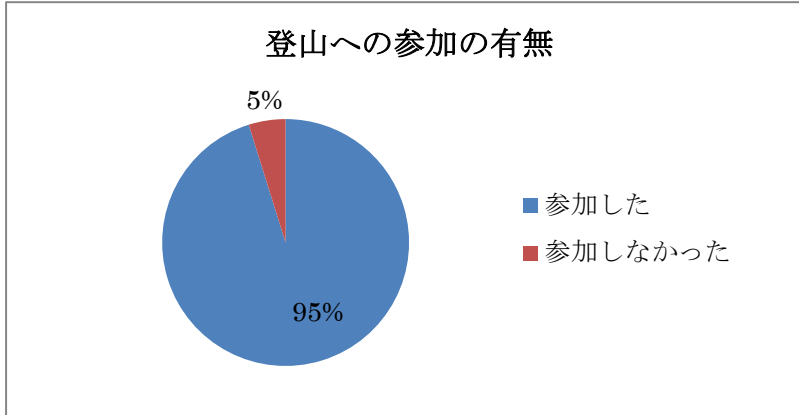
- ・2014(平成26)年に爺ヶ岳登山をおこなった3校
 - A校 生徒数 81人(男子48人 女子33人)
 - B校 生徒数 120人(男子57人 女子63人)
 - C校 生徒数 89人(男子41人 女子48人)
- ・3校の生徒数の合計は、290人(男子146人 女子144人) いずれも2学年で登山実施
- ・3校ともに、山岳総合センター職員が事前学習に協力
- ・3校の登山の様子
 - A校 7月下旬に実施
 - 1日目 雨の中、雨具を着て登る。
夕方少し晴れてきて、山小屋から大町市の風景が見えた。
 - 2日目 ガスがかかった中、頂上に登る。 雨には降られなかった。
下山時は登山道が濡れていて、滑りやすい状態だった。
 - B校 7月中旬に実施
 - 1日目 山小屋までは雨に降られなかったが、その日に登った頂上までの間で降られる。
 - 2日目 雨降りの中、雨具を着て下山を始める。
「ガラ場」を過ぎて雨具を脱ぐ。登山道は濡れていて滑って転んだ生徒がいた。
 - C校 7月中旬に実施を計画していたが、天候判断により夏休み後の8月下旬に延期。
 - 1日目 とても良い天気の中を登る。
 - 2日目 ライチョウにも遭遇。 ご来光を拝むこともできた。
遠くに富士山も見えた。
- ・質問項目は、①「性別」②「日頃の運動習慣の有無」③「登山への参加の有無」④「登頂の有無」⑤「爺ヶ岳学校登山の印象(山の自然、達成感、友人と一緒に登ったこと、山小屋に泊まったこと、体力的にどうだったか)⑥「事前学習は役立ったか」⑦「登山後のまとめ学習に積極的に取り組み

たか」⑧「これからもチャンスがあれば登山をしたいと思うか」(⑤～⑧はいずれも4件法)である。
・アンケート記入は、登山終了後おおよそ1週間以内に行った。

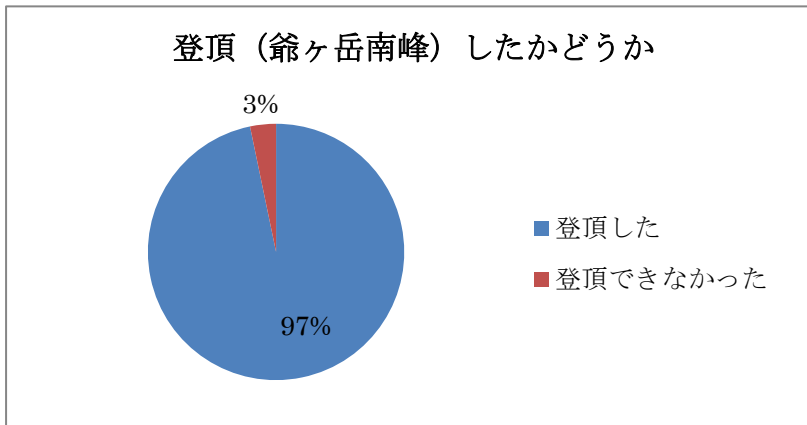
アンケート結果

1. 登山への参加状況

(1)登山に参加したかどうか

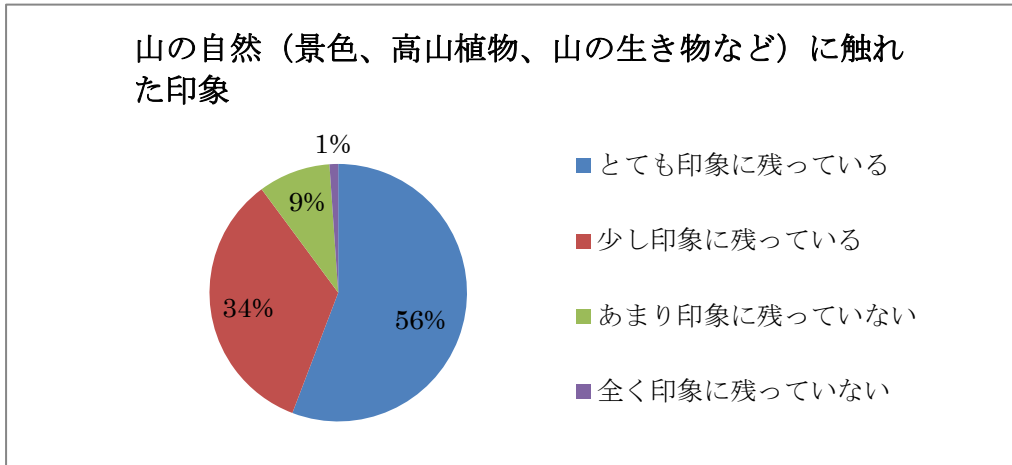


(2)頂上(爺ヶ岳南峰)に登頂したかどうか

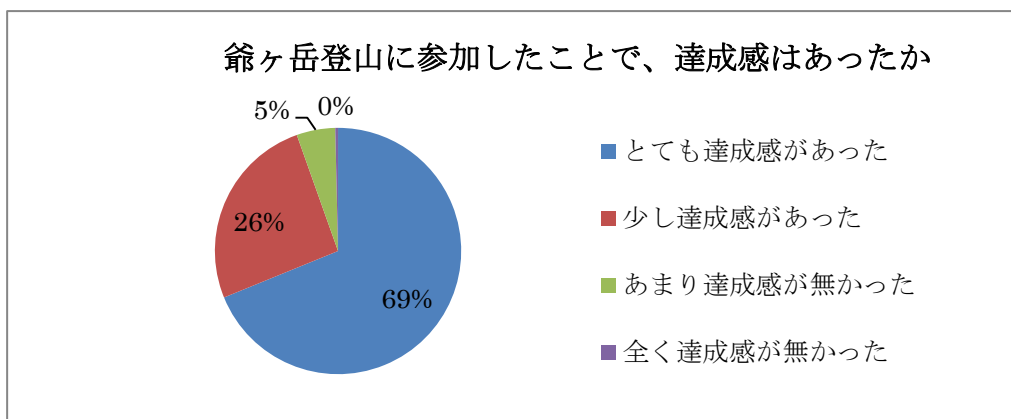


2. 爺ヶ岳登山の印象

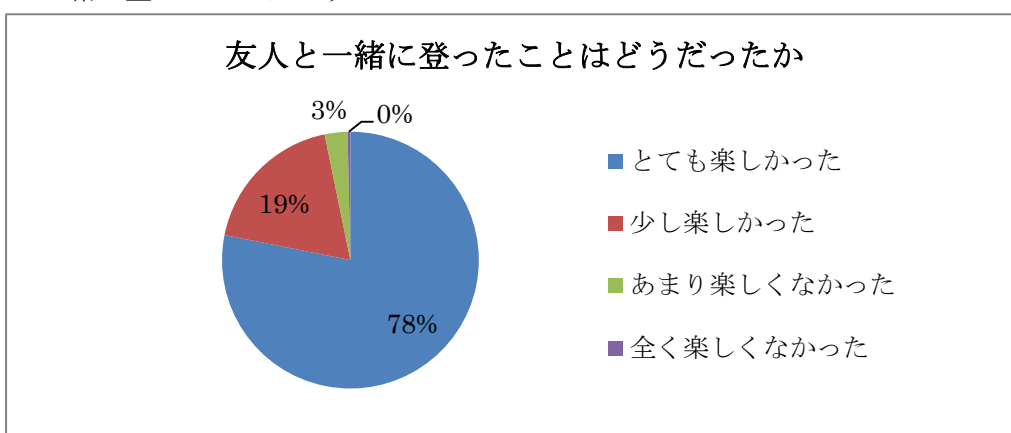
(1)山の自然に触れた印象は



(2) 登山に参加したことで、達成感があったか

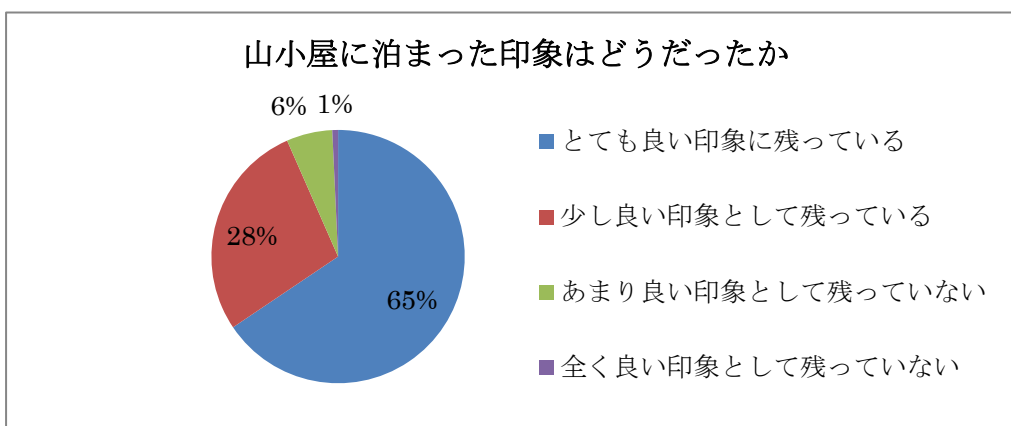


(3) 友人と一緒に登ったことはどうだったか



3. 宿泊した山小屋の印象

(1) 山小屋に泊まった印象は



(2) 「山小屋でどんなことが印象に残っていますか？ 書ける人は具体的に書いてください」という質問に対する自由記述から（印象の分類は、アンケート回収後にアンケート実施者が分類）

【山小屋のことや、山小屋で経験したこと】

○どちらかというとポジティブな印象

- ・山小屋から見た景色（景色、夕焼け、夜景）がとてもきれいだったこと。16人

- ・疲れていたのですぐに寝ることができ、熟睡できたこと。4人
- ・思っていたより小屋は広くて過ごし易かった。4人
- ・登山の疲れをとるために休憩した事。2人
- ・外に出て写真を撮ったこと。2人
- ・静かに過ごせた。2人
- ・山小屋の人にいろいろ教えてもらったこと。
- ・忙しいのに、(小屋の方が)ふとんや食事を用意してくれたこと。
- ・山小屋の外で涼しい風に当たったこと。
- ・部屋がきれいで、窓からは雄大な自然も見えて、体を休めるのにすごくいい場所だなあと思いました。
- ・布団が気持ちよかった。
- ・一つの大きな部屋で、男子みんなで寝たこと。
- ・普段とは違う感じで、風の音などを感じられた。
- ・外は寒かったが、山小屋の中は暖かくとても過ごし易かった。
- ・山小屋は少し狭い感じもしたけれど、居心地は良かった。
- ・山小屋で、同じ部屋の人と楽しく快適に過ごせたこと。
- ・過ごし易いところだった。
- ・想像していたよりは小屋がきれいだった。2人
- ・涼しくて過ごしやすかった。
- ・楽しかった。
- ・初めての山小屋で不安もあったけれど、友達とトランプしたことや窓から見る夜景などが印象に残っている。
- ・隊員(?)と話したこと。
- ・三重県の人と話したこと。

○どちらかというとなegティブな印象

- ・寝る時に、他の人がうるさくて、なかなか眠れなかった。11人
- ・トイレがつかかった。4人
- ・トイレがくさかった。
- ・トイレの電気が暗かった。
- ・泊まった時に、窓を少し開けるとトイレの匂いが臭かった。
- ・夜トイレに行ったのが怖かった。
- ・夏なのに寒かった。3人
- ・寝られなかった。3人
- ・ハウスダストがきつかった。2人
- ・部屋がとても狭かった。2人
- ・寝るとき暑かった。2人
- ・夜は寒く、歩くだけで響いたこと。
- ・寝るのに時間がかかった。

- ・同じ部屋の人の寝言が気になったのと寝る場所が無かったので、実質 1 時間しか寝てない。
- ・寝るところの天井が低すぎて、頭をぶつけた。

○分類不可な印象

- ・普段 家にいる時の生活と全然ちがって、とても印象に残った。
- ・消灯後の山小屋。
- ・とても早い時間に寝たこと。
- ・自分で食べた後の皿を拭いたり、大きな声では喋ったりしてはいけないこと。
- ・水のこと。
- ・水が大切だということ。
- ・水があまり使えないこと。
- ・少し寒いところでの生活。
- ・山小屋で寝たこと。2 人
- ・山小屋に泊まったこと。
- ・普段の生活ではダメ。
- ・トイレが印象に残っている。2 人
- ・周りの人に迷惑がかからないように過ごさなければいけないこと。

【食事のこと】

○どちらかというところポジティブな印象

- ・夕食のカレーと朝食がすごくおいしかった。19 人
- ・食事が楽しかった。3 人
- ・カレーをおかわりして (4 杯~5 杯) 食べたこと。3 人
- ・朝ご飯がたくさんあったこと。
- ・夕食でカレーを食べたこと。2 人
- ・学年全体で食事を摂る事ができたこと。
- ・みんなでカレーを食べたりしたこと。
- ・登山を終えた後 (疲れた後) の夕食のカレーがとてもおいしかった。
- ・山では大切なご飯を、おいしく食べられて嬉しかった。

○分類不可な印象

- ・山小屋での食事で、物資が少ないことがよくわかった。
- ・山小屋での食事。2 人

【友たちとのかかわりについてのこと】

○どちらかというところポジティブな印象

- ・トランプをして遊んだこと。42 人
- ・友達といろいろしゃべったこと。22 人
- ・山小屋で、友達と楽しく遊んだりして過したこと。10 人
- ・友達と一緒にご飯を食べたりしたこと。9 人
- ・みんなと楽しく (群がって、ぎゅうぎゅうになって) 寝たこと。8 人

- ・怖い話をしたこと。5人
- ・外に出て友達と見た景色（夕日とか）。3人
- ・友達と、景色をバックに写真を撮ったこと。3人
- ・夜の自由時間。2人
- ・友達と過ごす山小屋での時間はとても楽しかった。2人
- ・友達や先生方と、その日のことについて語り合ったこと。
- ・いろいろなゲームで暇つぶしをしたこと。
- ・話せる友達が増えたこと。
- ・周りの人に迷惑をかけないように、夜も遊んでいたこと。
- ・学年で泊った事。
- ・夜みんなで、懐中電灯で照らしながら話したこと。
- ・静かに他の人のことを考えて生活をする事。
- ・友達と、寝る前にたくさん話したり、余り接点のなかった人と話せるようになったりしたこと。
- ・友達と静かにしながら楽しんで盛り上がった所。
- ・夜中にみんなで起きて、少人数でトイレに行って肝試し気分を味わったこと。
- ・1日目の山頂アタックに行かなかった時の女子会。

○どちらかというとながティブな印象

- ・寝るときに騒いでいた人がいたこと。2人

○分類不可な印象

- ・うるさかった時に、一部の人が注意していたこと。
- ・みんなで協力して呼びかけたりしたところ。
- ・自分の部屋で過ごしている時。

【その他】

○どちらかというとながティブな印象

- ・係りの仕事を責任もってできたこと。

○どちらかというとながティブな印象

- ・山小屋の中では全体的に騒がしかったと思う。3人
- ・少し忙しかったこと。
- ・目が気持ち悪かった。
- ・ものすごく具合が悪くなった。
- ・頭が痛くてずっと寝ていた。

○分類不可な印象

- ・山小屋での係り会と1日目の感想。

4. 質問項目以外の爺ヶ岳登山での印象

（「質問項目としてあげた内容以外で印象に残ったことがあれば自由に書いてください」という質問に対する自由記述から 印象の分類は、アンケート回収後にアンケート実施者が分類）

○どちらかというところポジティブな印象と思われるもの

【A校】

- ・思ったより疲れなかった。
- ・三重県の人やおじさんたちと話したこと。
- ・景色
- ・地元にきれいな山があることが今でも印象に残っている。
- ・標高が高いこと。
- ・少し危険だったけれど、真剣に登れば大丈夫だった。
- ・カレーを5杯食べたこと。
- ・友達と話しながら楽しく登れて、一人で登るより何倍も楽しかった。
- ・雪渓が楽しかった。
- ・雪渓を通過するとき少し緊張したけれど、いい思い出になってよかった。
- ・友達同士で励ましあったり助け合ったりしながら登れた。
- ・ビショビショになったちらし寿司もうまかった。
- ・がんばって登ったこと。
- ・雪渓がきれいだった。
- ・日の出は見られなかったけれど、太陽の光で山がきれいだったこと。
- ・小屋の外に出た時、真っ白な景色が広がっていてきれいだった。

【B校】

- ・見た事の無い植物があつて、つらかったけれど見て楽しめた。
- ・山に登るのは、やっぱり楽しかったりきつかったりした。
- ・具合が悪くなったとき、男子がとても優しくしたしザックをもってくれたりした。
- ・雪渓など、あまり登ったことが無いところを登ったことが楽しかった。
- ・山小屋の人がどうやって生活しているのか見て、水や電気の大切さを知った。
- ・ご来光は見られなかったけれど、山頂アタックに行った時、あたり一面雲で真っ白だった景色に感動した。
- ・怖いところもあったけれど、登りきることができて楽しかった。
- ・登っていくうちに景色が変わって行ってとても感動した。あらためて自然の美しさに感動した。
- ・途中で貴重な高山植物を見ることができた。
- ・けっこうたくさん高山植物を見ることができた。
- ・登りや下りのときに見た植物の形が面白かった。
- ・みんながしっかり呼びかけをしていたところや、体調の悪い人に優しく話しかけていた事。
- ・「おはようございます」という挨拶や、「がんばってね」と言ってもらえるだけで、疲れていてもすごく元気が出て、すごくうれしかった。登山者の方々の温かさを感じた。

- ・筋肉痛にならなかった。
- ・星
- ・景色が最高だった。
- ・自然がとてもきれい。
- ・いろんな人の寝言。
- ・頂上からの景色がきれいだった。2人
- ・雪が意外と残っていた。
- ・もう一度登りたいと思った。
- ・景色がきれいだった。2人
- ・ケルンの付近が危なくてスリルがあって楽しかった。
- ・とてもきつかったけれど、登ってみるととても達成感があった。登山を通して、友達が支えてくれたり、優しかったりと、友達の良いところがたくさんわかったのもとても良かった。
- ・高山植物を見たこと。
- ・空気がすごくおいしい。
- ・山の自然や景色がきれいだったことが印象に残っている。
- ・山の高さと、地上の物の小ささ。
- ・登りきったという達成感。
- ・雲の間から少しだけ見えた大町市の景色。
- ・山の上からの景色はとてもきれいだった。

【C校】

- ・頂上からの景色がすごくきれいだった。2人
- ・ご来光時、富士山と一緒に見ることができてよかった。景色がすごくきれいだった。
- ・ご来光がとてもきれいだった。11人
- ・普段見ることのできない自然をたくさん見ることができた。
- ・景色がきれいだった。2人
- ・山がきれいだった。涼しかった。
- ・上に行くほど涼しくなってきた。
- ・夕焼けとご来光がきれいだった。
- ・ご来光のとき、日本海や富士山、北アルプスの山々が 360 度、とても美しい景色を見ることができ、人生で最高にうれしい体験ができた。
- ・あまり寒くなかった。
- ・きつかったけれど、景色がきれいだった。
- ・ご来光がきれいで、海や富士山が見えた。
- ・夜景
- ・気圧が低くなって、皆テンションが高くなっていた。
- ・登山中のおにぎりとおやつがとてもおいしく感じた。
- ・空気が薄く感じた。

○どちらかというとながティブな印象と思われるもの

【A校】

- ・でこぼこ道が多かったこと。
- ・1日目が雨だったこと。
- ・自分の住んでいる町がうまく見えなかったから残念だった。
- ・山頂からご来光が見られなくて残念だった。
- ・すごく濡れたこと。
- ・ご来光がみられなかったし、ライチョウにもあえなかったことが残念。
- ・雨が降っていて大変だった。
- ・天候が悪くて残念だった。
- ・ストックがあるのとないのではかなり違った。
- ・雨の中だったので滑りやすく危険だった。

【B校】

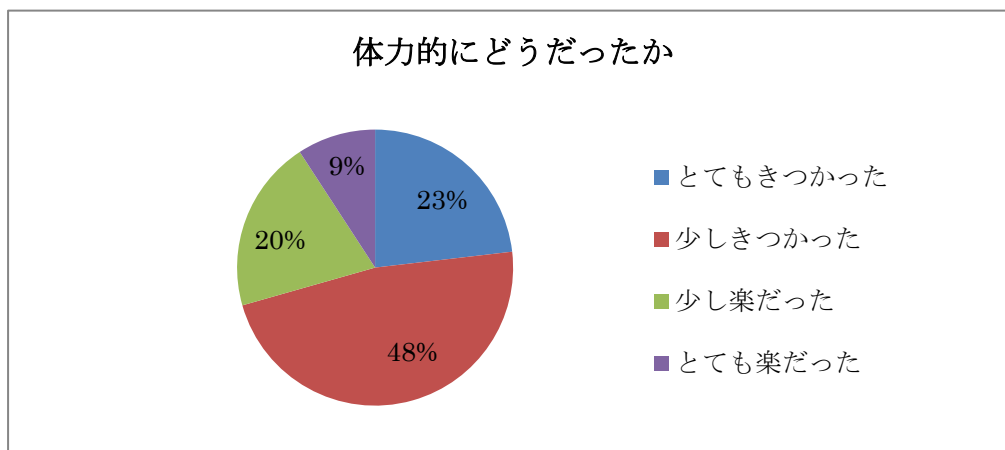
- ・雪渓がとても怖かった。
- ・足が疲れた。
- ・雪渓の恐ろしさ。
- ・道の狭いところを通ったときすごく緊張した。
- ・南峰に登っているとき風がとても強かった。
- ・南峰に登るとき、高くて怖かった。
- ・足が痛くなった。
- ・行動食が余った。
- ・山小屋に着いてから、すごく寒くてびっくりした。

【C校】

- ・とても疲れた。3人

5. 体力的なこと

(1)体力的にどうだったか



(2)体力面における男女の違い

「とてもきつかった」を1点、「少しきつかった」を2点、「少し楽だった」を3点、「とても楽だった」を4点とし、得点化したものの平均値は、

男子生徒の平均 2.51

女子生徒の平均 1.76

(3)体力面における日ごろの運動との関係

「とてもきつかった」を1点、「少しきつかった」を2点、「少し楽だった」を3点、「とても楽だった」を4点とし、得点化したものの平均値は、

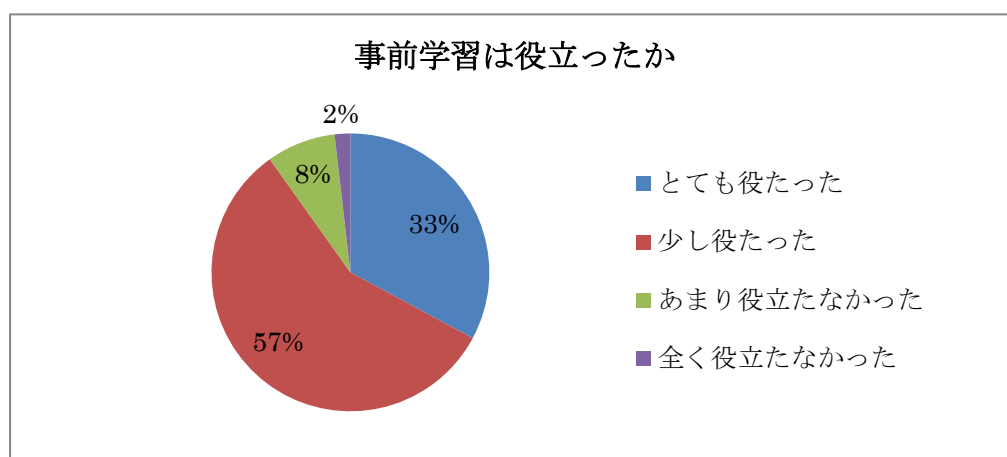
日ごろ運動をしていると答えた生徒の平均 2.29

日ごろ運動をしていない生徒の平均 1.73

6. 事前・事後学習について

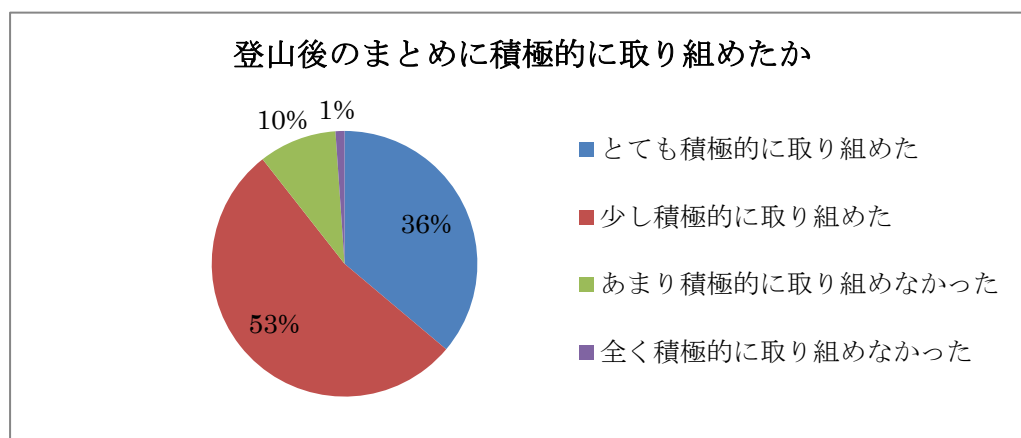
(1)事前学習は、登山に向けての事前準備として役立ったか

(事前学習として取り組んだ内容は、学校によって違う。具体的な学習内容としては、「登山事前学習講話」「写真つきの登山資料掲示」「予備登山」「登山時に履く靴(トレッキングシューズ等)での登校」「登山時に背負うザックでの登校」等)



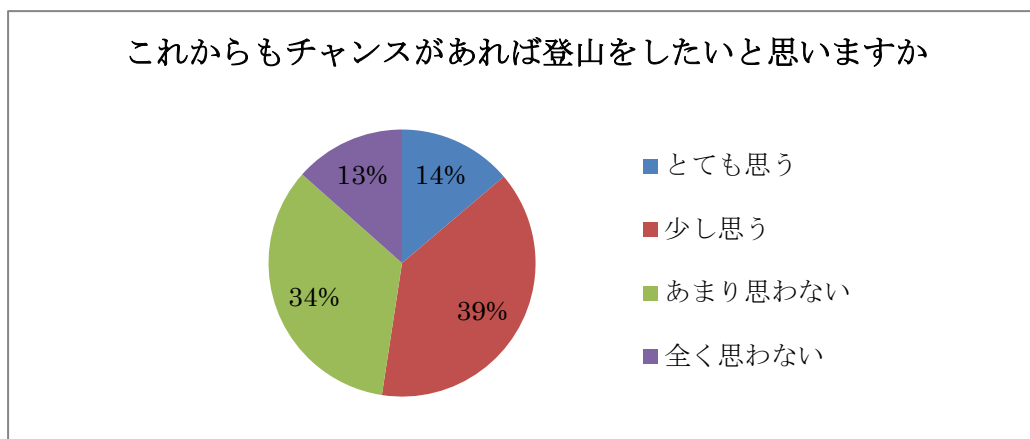
(2)事後学習に積極的に取り組めたか

(事後学習として取り組んだ内容は、3校ともほぼ同じ内容。具体的な学習内容としては、「係毎の反省会」「登山新聞づくり」等)

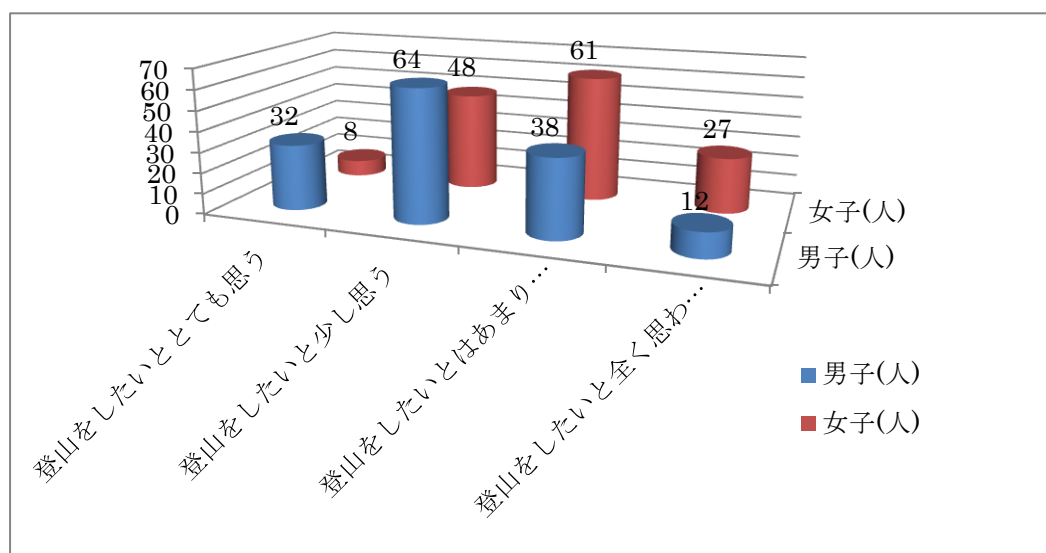


7. 学校集団登山後の、登山に対する意識

(1) これからチャンスがあれば登山をしたいと思うか



(2) 性別による登山に対する意識の違い



「登山をしたいととても思う」を4点、「少し思う」を3点、「登山をしたいとあまり思わない」を2点、「全く思わない」を1点とし、得点化したものの平均値は、

男子生徒の平均 2.79 点

女子生徒の平均 2.26 点

まとめと考察

1. 登山への参加状況

登山実施学年の5パーセントの生徒が、登山に参加していないという結果であった。この生徒は、計画段階から不参加の意思を表明していた生徒と、当日急に参加できなくなった生徒が含まれる。

登山には参加したが登頂できなかった生徒は、3パーセントだった。

5パーセントの生徒が学校行事へ参加しなかったという数字が、多いのか少ないのかについては、学校関係者のご意見をお聞きしたい。

2. 爺ヶ岳登山の印象

「山の自然に触れたこと」「登山に参加した達成感」「友人と一緒に登ったこと」の3項目の質問とも、4件法の選択肢の上位2件（とても達成感があった、少し達成感があった等）を選んだ生徒は、それぞれ90パーセント、95パーセント、97パーセントと、いずれも90パーセントを超えていた。生徒たちにとって、印象に残る、また達成感のある楽しい登山だったことがわかる。

3つの印象の中で、「友人と一緒に登ったことがとても楽しかった」と答えた生徒は78パーセントで、「山の自然に触れたことがとても印象に残っている」の56パーセント、「登山に参加したことはとても達成感があった」の69パーセントを大きく超えている。3校の生徒たちにとって、“友達と一緒に登る山”はとても楽しかったようだ。

しかも友達と一緒に登った登山は、登山での印象の自由記述の内容からも、とても思い出に残る登山だったということがわかる。「外に出て友達と見た景色」や「友達や先生方と、その日のことについて語り合ったこと」、「あまり接点のなかった人と話せるようになったりしたこと」を登山での印象に残ったこととして書いている生徒が何人かいた。また、「友達と話しながら楽しく登れて、一人で登るより何倍も楽しかった」「登山を通して、友達が支えてくれたり優しかったりと、友達の良いところがたくさんわかったのでとても良かった」と感想を書いている生徒もいた。登山という非日常的な行為の中で、普段の学校生活ではなかなか味わえない体験を友達と一緒にしたからこそその感想ではないだろうか。

中には、「具合が悪くなったとき、男子がとても優しくしたしザックをもってくれたりした」と書いている女子生徒がいた。登山中、調子の悪くなった女子に対して、照れること無く自然な気持ちで優しく接した男子の姿が想像できる。学校集団登山のもつ教育的価値のひとつといえるだろう。

また、このような友達とのかかわりのことを書いている生徒は、天気にも恵まれたC校よりも、雨に降られたりしてやや厳しい登山になったA校とB校のほうが多かった。天候にも恵まれたC校の生徒たちは、登山の印象として、「頂上からの景色のすばらしさ」や「ご来光のきれいさ」をより多くあげていた。天候にも恵まれることに越したことは無いが、(危険でない程度に)天候が良くない場合は、思わぬ教育的効果がうまれる可能性もある。

宿泊した山小屋に泊った印象では、4件法の選択肢の上位2件（とても、少し）の良い印象を選んだ生徒は83パーセントだった。

この数字の高さは、山小屋に泊ったからこそ見ることができた自然のすばらしさや、外の寒さに比べて山小屋の中が暖かかったといったような快適さに対するありがたさ、疲れているということもあり、ぐっすり寝ることができたことを喜ぶ率直な感想の結果だと思われる。

また、「周りの人に迷惑がかからないように過ごさなければいけないこと」や「水が大切だということ」、「自分で食べた後のお皿を拭いたり、大きな声でしゃべったりしてはいけないこと」という記述は、ポジティブでもネガティブでもない、分類不可な印象として扱っているが、決して悪い印象ではなく、山小屋に泊るといって登山を体験したからこそ感じることもできた感想ではないだろうか。

一方で、7パーセントの生徒が、「あまり良い印象で無かった」または「全く良い印象で無かった」と答えている。その理由としては、「トイレ」「泊った部屋の環境（部屋の狭さ、不快さ等）」「体調が優れなかったこと」等をあげている。山小屋で、頭が痛くてずっと寝ていた生徒は、高山病を発症していたのかもしれない。付き添いの医師や看護師、養護教諭が、より早めに適切な処置を施すようにしていきたい。

「消灯時間になると電気がいっせいに消える事」や「トイレの事」、「泊った部屋の環境の事」については、登山前の事前学習のなかで、厳しい自然環境の中で営業している山小屋の実情や苦労についてしっかり触れておく必要がある。「旅館」や「ホテル」と同じようにはならない理由、そして、そのような環境の中でも、登山者が少しでも快適に過ごせるようにと山小屋の方が努力されているということ、ぜひ登山前に生徒達に伝えたい。

「初めての山小屋で不安があった」という記述もあった。これは正直な気持ちだと思う。事前に山小屋の様子を知ること、登山に対する不安も減るのではないだろうか。

3. 質問項目以外の爺ヶ岳登山での印象

天気にも恵まれたC校の生徒の印象には、「日本海や富士山まで見ることができて、人生で最高にうれしい体験ができた」とか、「夕焼けやご来光のすばらしさ」といった、自然のすばらしさや雄大さについての記述が多かった。登山のもつ大きな魅力のひとつだろう。

一方、どちらかというと天気にも恵まれなかったA校やB校の生徒のなかにも、「雲の間から少しだけ見えた〇〇市(生徒が住んでいる地元)の景色」や「ご来光は見られなかったけれど、太陽の光で山がきれいだったことやあたり一面雲で真っ白だった景色に感動した」、「登山道沿いの植物」、「空気がすごくおいしい」といったような、天気にも恵まれたC校の生徒とはやや違う自然についての印象を書いている。

登山はどうしても天気にも左右される。“登山当日が日本晴れ”ならば最高だけれど、そのようなことはめったに無い。日本晴れでなくても、登山を通して生徒たちが自然のすばらしさや雄大さを学ぶことは多い。

また、「とてもきつかったけれど、登ってみるととても達成感があった」という印象を何人かの生徒が書いている。体力的にきつかった生徒が多かったのは事実だが、だからこそ69パーセントの生徒が、爺ヶ岳登山でとても達成感を味わったのだろう。

達成感とは、自己肯定感や自己効力感にもつながる。生徒たちにとって、達成感を得るということの意義は大きい。「爺ヶ岳登山」を通して、自己肯定感や自己効力感に通じる達成感を得た生徒が多かったのではないだろうか。

「水や電気の大切さを知った」と書いた生徒もいた。この生徒にとって、今回の登山で得たものは大きい。また、「山に行くほど涼しくなってきた」と書いた生徒がいる。当たり前なことなのだけれど、標高が高くなると気温が下がるということを実体験したという経験は、理科の学習とも結びつく。

「少し危険だけれど・・・」「怖いところもあったけれど・・・」「南峰に登るとき、高くて怖かった」と書いた生徒も何人かいた。バランス感覚や体力の個人差で、その感じ方は違ってくる。この点については、日々生徒と一緒に生活をして生徒のことを一番知っている先生方の、その場に応じた適切な対応が求められる。場合によっては、隊に同行するガイドの方の力を借りることもあるだろう。

「少し危険だけれど・・・」と書いた生徒は、その続きで「真剣に登れば大丈夫だった」と結んでいる。状況や場面によっては、生徒たちが真剣に登るようになるような事前の学習内容や、その場での声かけといったような「手立て」も必要だろう。

4. 体力的なこと

爺ヶ岳登山が、体力的に「とてもきつかった」と「少しきつかった」をあわせると 71 パーセントで、ほぼ 4 人に 3 人が体力的にきつかったと答えている。また、男子よりも女子のほうが、日ごろ運動している生徒よりも運動していない生徒のほうがきつかったと答えている。

この結果は、長野県教育委員会スポーツ課 平成 26 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」のなかの実技に関する調査結果のまとめの中で、「長野県の結果について中学校女子の 20m シャトルランは、全国に比べても低い状況で、発達段階から見ても中学生期では、持久力が最も発達する時期であり、運動量の少なさが原因であると考えられる」と記されている内容とも結びつくものである。

登山のために特別な運動をするということではなく、中学生期の運動、特に持久系の運動の大切さを理解したうえで、日々の生活の中で運動を取り入れる事を考えていきたい。そうする事で、登山をより楽しめる生徒にしていくのではないだろうか。

5. 事前・事後学習について

「事前学習がとても役立った」と答えた生徒は 33 パーセントで、「少し役立った」という生徒も入れると、90 パーセントの生徒が役立ったと答えている。また、「登山後のまとめにとても積極的に取り組めた」および「少し積極的に取り組めた」生徒も 89 パーセントと、ほぼ同じ数字を示す結果だった。事前学習が役立った生徒たちは、登山に対して主体的に取り組む、その結果として「登山新聞作り」といった登山後のまとめ学習にも積極的に取り組んでいる様子が見えてくる。

ほとんどの生徒が、本格的な登山は初めての経験だろう。そういう生徒達にとって、登る山の知識や安全に楽しく登るためにはどのようなことに注意したらよいのかといった話は、たいへん役立っていることがわかる。そういう生徒たちにだからこそ、「山を含む自然のすばらしさ」や「自然保護の大切さ」、「登山の楽しみ方」、「安全な登山」といった内容の事前学習を仕組むことはたいへん意義のあることではないだろうか。

「学校集団登山」は、一般で言う「登山」とは違う面ももっている。「学校集団登山」における「山」は、登山を通していろいろなことが学べる「教材」でもある。

6. 学校集団登山後の、登山に対する意識

「これからもチャンスがあれば登山をしたいと思いますか」という問いに対して、約半数の 52 パーセントの生徒が「思う」と答えている。そのうち「登山をしたいととても思う」と書いている生徒は 14 パーセントいた。一方、「登山をしたいと思わない」と答えた生徒は、47 パーセント。「登山をしたいとは全く思わない生徒」は 13 パーセントという結果だった。

また男子と女子を比べると、「登山をしたいと思う生徒」は男子のほうが多かった。

当センターによる平成 12 年度の「小・中学生のアウトドア活動実態調査」（調査対象や調査方法といった詳細は略）で、29 パーセントの生徒が「二度と登りたくない」と答えた結果から、「集団登山を行うことで“山嫌い”をつくってしまっている可能性が大きい」というまとめを引き出している。「二度と登りたくない」と「登山をしたいとは全く思わない」を同じレベルと考えると、平成 12 年度の調査と今回のアンケート結果で、29 パーセント⇔13 パーセントという数字の違いがある。

今回の 3 校の生徒に限って言えば、けして「集団登山を行うことで“山嫌い”をつくってしまっている」

ということはない。逆に、「半分の生徒を“山好き”にしている」と考えることもできるだろう。

上記の平成 12 年度の調査では、「今後の方向」の中で、「困難を乗り越える精神力を養うとか規律ある集団行動によって安全を確保する」といった考え方ではなく、生徒を中心に捉え、生徒が登山をしたいと思えるような目的を設定できるかどうか成功の鍵であろう」と記している。今回の調査対象の 3 校の結果から、「生徒を中心に捉えた登山」を実施しているように感じた。

最後に

今回の調査をまとめていく中で、中学生たちの学校集団登山に対する本音を聞くことができた。

山の自然に素直に感動しているとともに、友達と過ごす山小屋での生活を楽しんでいる様子がわかる。トランプをしたことや友達との語らいを楽しみ、おかわりをして食べたカレーが思い出として残っている。また、「学校集団登山」で登る山は、「友達と一緒に登る山」という要素が強いということがわかった。そして、登山を通して、普段の生活ではなかなか学べないことを学んでいることが伺えた。

このような登山ができるのも、快適な山小屋があつての話である。山小屋関係者のご努力には頭が下がる思いである。2000メートルを越える自然環境の厳しい高山という場所で、登山者が少しでも快適に過ごせるように、「トイレ」「食事」「水」「電気」等いろいろとご苦労されていることについては、ぜひ生徒たちに事前に具体的に伝えるようにしていきたい。

また、今回のアンケート調査では、「これからもチャンスがあれば登山をしたいと思うか」という問いで、「登山をしたいと全く思わない」という生徒が、3校で男女合わせて 39 人いた。その理由は何だろう。次回の調査研究では、この点について検討してみたいと思う。

最後に、「学校集団登山」が、今まで以上に「安全で楽しい」登山になるよう、山岳総合センターでも先生方の要望や期待に応えていきたいと考えています。何かありましたら連絡をください。

今回のアンケートに協力してくれた生徒の皆さん、ありがとうございました。

皆さんには、「生涯スポーツとしての登山」をこれからもずっと楽しんでほしいと思います。